



平成 22 年 2 月 15 日

各 位

会 社 名 ダイードロリンコ株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 高松 富博
(コード番号 2590 東証第 1 部)
問 い 合 わ せ 先 常務取締役 経営企画部長 八尾 雅幸
電 話 番 号 (06) 6222-2621

平成 22 年 1 月期 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 11 月 24 日の第 3 四半期決算発表時に公表した平成 22 年 1 月期（平成 21 年 1 月 21 日～平成 22 年 1 月 20 日）の通期業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせします。

記

1. 平成 22 年 1 月期 通期連結業績予想の修正（平成 21 年 1 月 21 日～平成 22 年 1 月 20 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) (平成 21 年 11 月 24 日発表)	150,800	3,600	4,100	830	50.10
今回修正予想 (B)	151,000	6,000	5,500	700	42.25
増減額 (B-A)	200	2,400	1,400	△130	—
増減率 (%)	0.1	66.7	34.1	△15.7	—
前期実績 (平成 21 年 1 月期)	155,941	2,619	2,935	1,002	60.49

2. 修正の理由

個人消費の低調な推移や天候不順などの影響により、飲料販売部門の売上高は依然厳しい状況で推移していますが、一方で飲料受託製造部門については大手医薬品等有力メーカーからの受注が好調に推移しております。これらの結果、連結ベースでの売上高は、前回発表に対し微増となる見込みであります。

利益面につきましては、将来の持続的成長を展望した「グループ組織再編の実施」、抜本的構造改革を推し進めた結果、一時的に特別損失等を計上することとなりましたが、業務の見直しによる固定費削減などのコストコントロールを徹底して行い、より一層の利益確保に注力した結果、営業利益、経常利益は前回発表予想を上回る見込みとなりました。

尚、特別利益及び特別損失の内容は以下の通りであります。

(1) 特別利益の内容

①退職給付引当金戻入額

「ダイドードリンコグループの組織再編」の実施に伴い、当社から子会社等へ転籍する従業員に係る退職給付債務の減少額等について、退職給付会計基準に則り、退職給付引当金戻入額として 615 百万円を特別利益に計上することといたしました。

(2) 特別損失の内容

①事業構造改善費用

「ダイドードリンコグループの組織再編」の実施に伴い、当社から子会社等へ転籍する従業員に対する転籍一時金など、事業構造を抜本的に改善するための費用として、2,374 百万円を特別損失として計上することといたしました。

②リース会計基準適用影響額

リース会計基準の適用に伴い、過年度累積影響額 947 百万円を特別損失として計上することといたしました。

③災害による損失

平成 21 年 8 月に発生した静岡沖地震の損害に対する、建物等の改修等に係る費用 54 百万円を特別損失として計上することといたしました。

④投資有価証券評価損

当社が保有する投資有価証券のうち、時価が取得価額に対し著しく下落した銘柄につきまして、投資有価証券評価損 472 百万円を特別損失として計上することといたしました。

以上により、前回発表予想を修正いたします。

※業績予想につきましては、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる可能性があります。

以 上